

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 8 月 3 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (8/3 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.2 m ³ /h	37.8	106.7 kPa abs	A系： 0.03 vol%
		給水系：約 3.0 m ³ /h			B系： 0.03 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 5.8 m ³ /h	48.8	4.47 kPa g	A系： 0.07 vol%
		給水系：約 2.2 m ³ /h			B系： 0.07 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 5.1 m ³ /h	48.6	0.22 kPa g	A系： 0.25 vol%
		給水系：約 2.4 m ³ /h			B系： 0.24 vol%

* 絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

【2号機】8/3 11:46 原子炉への注水量の変動が確認されたため、給水系からの注水量を約 2.2m³/hから約 2.0m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約 5.8m³/hから約 5.5m³/hに調整。

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (8/3 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	29.5
2号機	循環冷却システム	運転中	30.2
3号機	循環冷却システム	運転中	28.8
4号機	循環冷却システム	運転中	37

* 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘヒドラジンの注入を適宜実施。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
1号機	1号機 タービン建屋	→ 2号機タービン建屋	8/3 14:07 ~ 移送実施中
2号機	2号機 タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	8/1 11:13 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	7/31 9:47 ~ 移送実施中

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (8/3 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

* フィルタの洗浄を適宜実施。

- ・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。
- ・H24/6/21 12:05 H1スキッド内のバルブ交換工事を行うために、セシウム吸着装置を停止。停止期間は約1ヶ月の予定。なお、バルブ交換工事期間中は第二セシウム吸着装置による処理を継続予定であり、滞留水処理、原子炉注水については問題ない。
- ・H24/8/3 7:30 A系B系の2系統で運転していた第二セシウム吸着装置において、B系ろ過フィルタの圧力指示伝送器の取り付け部から、水のにじみが発生していることをパトロール中の協力企業作業員が確認。このため、当該部をビニール養生した上で継続監視していたが、にじみが継続していることから、8/3 12:11、B系を停止し、B系のろ過フィルタをバイパスさせ、12:20、B系を再起動。B系を停止した時点で、水のにじみが停止していることを確認し、あわせて止水テープによる補修を実施。なお、B系停止中もA系は運転を継続しており、流量はB系停止前および起動後は約 40m³/h、B系停止中は約 20m³/hであり、滞留水処理に影響はない。今後、原因調査を実施する予定。

<5. その他>

- ・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5、6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- ・H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/3/6～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。
- ・H24/7/27～ 14:54 1～3号機の窒素供給装置(窒素ガス分離装置A)の流量指示が出ていないことを確認。このため、15:20 に現場を確認したところ、同装置が停止していることを確認。その後、「圧縮機故障」メッセージおよび「インバータ重故障」の表示が発生していたことを現場にて確認。
停止の原因については、発生した警報がリセットできたこと、装置の再起動が可能であったことからインバータの故障の可能性は低く、インバータ誤動作により装置停止に至った可能性が高いと判断。
- H24/8/2 診断装置による評価の結果、試運転が可能であると判断したため、8/2 8:02に窒素ガス分離装置Aを起動、8:23 に窒素供給を開始し、運転状態確認を開始。9:13、診断装置を手動停止した際に、インバータが停止したことから運転状態確認を中断したが、停止原因がインバータの不具合ではないことから、12:10 に窒素ガス分離装置Aを再起動、12:27 に窒素供給を開始し、運転状態確認を再開。14:03、免震重要棟で警報が発生していることを確認。14:25、現場を確認したところ、同装置が停止していることを確認したことから、運転状態確認を中断。その後、「圧縮機故障」メッセージおよび「インバータ重故障」の表示が発生していたことを現場にて確認。今回警報が発生した原因の究明を行うため、運転状態確認を今後実施する予定。なお、1～3号機の原子炉格納容器への窒素注入については、窒素ガス分離装置Bにより正常に継続している。

以上